

トルの館 (PAZO DE TOR)

この館の起源は 14 世紀のガルサ家の家系と結び付いており、最後の所有者となったマリア・デ・ラ・パス・タボアダ・デ・アンドレス・イ・スニガ夫人まで、直系の子孫が受け継いでいました。1998 年に夫人が館をルゴ県議会に寄贈し、博物館として整備された後、2006 年 7 月 13 日に一般公開されました。

建物は基本的に 18 世紀末のものですが、それ以前の痕跡も残っています。ナポレオン軍の攻撃による火災後、修繕と部分的な改築が行われました。ガリシアに長く続いたバロック様式の建物ではありますが、その簡素さ、左右対称、古典様式に見られるように、新古典主義の雰囲気も若干感じられます。

館の見学では、建物としての側面だけでなく、すべての部屋を、当時の家具や、一族が何世紀にもわたって所蔵してきた美術コレクションとともに、見学することができます。それらは、近現代のガリシアにおける貴族の生活様式の、類まれな証人と言えます。

この館には見学可能な箇所（部屋、食堂、広間）が 17 あり、その大半が実際に使われていた家具を備え、様々な年代と起源の絵画、彫刻、贅沢な美術作品が多数収められています。他に興味深いのは、ドミンゴ・フォンタンが作成したガリシア地図と、彫刻家アグスティン・バアモンデが手がけた 1757 年の地図・報告書で、ルゴのカンポ・カステージョ広場が描かれています。

この館の部屋では、武器の間、北の広間、執務室、娯楽室、昼の広間、主寝室、主食堂が際立っています。

武器の間 (1)

甲冑 2 着、武具一式と剣と火器が収められており、アラビア銃がひときわ目立つ存在です。この部屋の家具では、引き出しに彫刻のある栗の木の中央テーブル、絵で飾られた箆筒、人の移動用の輿が目を引きまします。

北の広間 (4)

この部屋には油絵の肖像画が何点もかけられています。館の最後の主人であったマリア・パス・タボアダ夫人の肖像画は、両親と曾祖父母の肖像画に挟まれています。その他の一族の肖像画では、サラマンカの司教であったホセ・マリア・バレラ・デ・テメス (19 世紀) のものもあり、作者はカンディド・ガラバルです。

いくつもの陳列棚に、実に様々な起源の、貴重で多種多様な装飾美術や贅沢な美術品（装身具、扇、パイプ、腰巾着、ロケット）が収められています。

中央テーブルの中心的位置に、ダニエル・スロアガによる手描きの陶器の壺が置かれています。

この広間は客間の 1 つ (5) とつながっていますが、その客間には詩人のウシオ・ノボネイラが常泊していました。また、聖像のある飾り衝立が展示されている礼拝堂 (6) ともつながっています。保存されている記録によると、この飾り衝立の多彩色は、壁の装飾絵画と同様に、モンフォルテ・デ・レモス出身の画家ホセ・カサノバ・コルティニーニャスが 1909 年に手がけたということです。

執務室 (7)

この部屋の家具では、書き物机や作り付けの戸棚と揃いの飾り戸棚が際立っています。ここには司教座聖堂参事会員ホセ・マリア・バレラ氏が所有していたサルガデロスの食器が保管されています。16、17世紀の書物で構成された重要な文献コレクションも目を引きます。壁を飾る絵画には、『聖母と幼子』と『ユダの裏切り』の油絵2点、カルメンの聖母を描いた興味深いレリーフ絵画などがあります。

娯楽室 (9)

ホールの中心に位置する古いビリヤード台から、この名前が付けられています。家具の中では、寝具用の大きく頑丈な木製箆筒、風景とモニュメントが油絵で描かれた屏風と応接三点セット、ソファ、長椅子、部屋に配置された何点ものゲーム用テーブルが際立っています。同じ場所に、イギリスのドレル社製の大きな振り子時計があり、胴体部には金メッキで東洋のモチーフの装飾が施されています。

この広間の壁にかけられている絵画では、マグダラのマリア、アッシジの聖フランシスコとフランシスコ修道会の聖人、グアダルペの聖母の油絵3点が注目を集めます。

広間は夫人の間(10)とつながっています。館の最後の主人の部屋であったためにこのように呼ばれており、手描きの洗面台や、『受胎告知』と『サン・ホセの夢』の板絵(油絵)が2点あり、いずれも17世紀の画家ランデイラの署名が入っています。

昼の広間 (12)

暖炉があり、壁には大きな鏡が3枚かかっています。タラベラとサルガデロスの陶器とともに、銅に描かれた油絵でティツィアーノの作品の複写である『サン・ロレンソ』や、アグラソットの署名がある『風景』、『聖家族』、『エクセ・ホモ』の油絵3点など、時代の異なる様々な絵画も所蔵されています。ロンドンのコラード&コラード社のフォルテピアノ、ピアノラ、ロンドンのロングマン&ブロデリップ社のクラヴィオルガンが目を引きます。

主寝室 (13)

この部屋では、ネオゴシック様式の3つのアーケードを持つ木製構造が、寝室部分と居間部分を区切っています。この部屋の家具では、16世紀の天蓋付きベッドが際立っています。パロサントの木を使用してナポリで作られたイタリア・ルネサンス様式のベッドで、象嵌細工、薄板、ブロンズの透かし細工でおびただしい装飾が施されています。このベッドの横に、寄木細工の控え目な装飾の揺りかごがあり、反対側にはトレント社製の手描きのイギリス式トイレがあります。

居間の部分の家具では、2人掛けソファ、4人掛けの楕円形ソファ、箆笥、書き物机が特筆に値します。

いくつかの飾り戸棚と 1759 年の大櫃が展示されている広い廊下 (15) が、様々な部屋への通路になっており、その中の一つが主食堂です。

主食堂 (17)

中央の大きなテーブルの上に、サンティアゴ・デ・コンポステラの司教座聖堂参事会員ホセ・マリア・バレラ氏が所有していた食器が展示されています。

部屋の隅の一つに最近作られた暖炉があり、ブロンズと銅の品々で飾られています。この部屋の家具には、飾り戸棚、18 世紀の大櫃、アルフレド・デレヘ製の時計があり、壁には狩猟の場面のタペストリーと油絵が数点展示されています。その中で特筆に値するのが、パヤ枢機卿と、司教座聖堂参事会員のホセ・マリア・バレラ氏の肖像画、アメリカで描かれたマラビージャスの聖母の油絵、聖母像の前で跪くフランシスコ・ホセ・デ・キロガ・イ・ロサダ氏の興味深い奉納肖像画です。

館の部屋には回廊 (18) もあり、そこから素晴らしい眺望が楽しめ、前景には板石で作られた独特の迷路が見られます。

付属建築

近年整備された付属建築には、鍛冶場、鶏小屋、馬車庫 (19 世紀の馬車 4 台と様々な鞍が注目を集めます)、馬具製造所があります。

書庫

16~20 世紀の 2,154 作品、合計 2,948 冊が保存されています。

トルの館の座標 (測地系 ETRS89)

UTM : 29 617558 4713921

地理座標 : 42°34'7,49"N 7°34'3,74W

小数度 : 42.5687479737 -7.5677044448

見学時間

火曜～土曜 : 11:00、12:30、16:30、18:00 からガイド付き見学

月曜休館

休館日 :

1 月 1 日 (新年)、カーニバルの火曜、5 月 22 日 (サンタ・リタの祝日)、12 月 24・25・31 日

入館無料

Pazo de Tor

San Xoán de Tor

27591 Monforte de Lemos (Lugo)

Tel: +34 982 165 534 / pazodetor@museolugo.org

www.museolugo.org